

試験研究評価シート（事前）

評価の種類	事前評価		担当課	保健科学担当	
課題名 (研究テーマ)	徳島県における薬剤耐性菌検査に関する検討		研究者名	(正) 篠原 礼 (副) 飛梅 三喜	
研究期間	平成31～32年度	予算額 560 (千円)	次年度 560 (千円)	予算種類	国補・ <input type="checkbox"/> 県単 その他()
必要性	<p>様々な薬剤耐性（AMR）菌の検出例が世界的に増加し、2050年には薬剤耐性菌感染症による死亡数が、がん死亡数を抜くと予想され、我が国でも医療機関、高齢者施設等での院内感染や集団感染事例が多数報じられている。</p> <p>世界保健機構（WHO）は各国に行動計画の策定を要請し、日本では厚労省が、2016年にAMR対策アクションプランを策定し、医療、農林水産、食品安全の各分野で様々な取り組みが始まった。</p> <p>医療分野における感染症拡大のリスクの高まりに対して、感染症法の改正により、薬剤耐性菌感染症を診断した医師は、7日以内の届け出を義務付けられ、地方衛生研究所は、基本的な試験の実施と医療機関への情報提供を行うようになった。</p> <p>併せて徳島県においては、都道府県別抗菌薬販売量サーベイランスの結果より、抗菌薬の使用量が全国の中でも高いことから、県民への薬剤耐性菌の拡大の未然防止は喫緊の課題である。</p> <p>そのため、従来より詳細な耐性菌の検査体制を整える必要があると考える。</p>				
目標	<p>薬剤耐性菌の遺伝子解析検査体制を確立、医療機関等における院内感染への迅速対応のための情報提供を可能とし、感染拡大防止及び、県民の健康維持に寄与することを目標とする。</p>				
研究内容	<p>薬剤耐性菌は、様々な菌種、遺伝子型があり、その耐性機構は複雑である。カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）などの薬剤耐性菌について、遺伝子解析による迅速な検査体制を確立する。</p> <p>そして、県内医療機関より提供を受けた菌株について、薬剤耐性傾向を集積・解析し基礎資料を得る。</p> <p>また、今後構築されるネットワークづくりの活用手法を考え、検査体制を整えることで得られた情報を速やかに医療機関等へ提供し、県内事例の解析へ還元することで耐性菌の蔓延防止を図る。</p>				
手法	<p>県内医療機関より提供を受けた菌株について、つぎの方法により調査を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 遺伝子解析法などを用いた分子疫学検査体制の確立 従来の検査より分析項目を増やし、広い範囲で確認を可能にする 2) 得られた薬剤耐性菌の情報を集積しデータベース化により県内発生動向の基礎資料を作成 3) 今後構築される行政機関、医療機関と連携した薬剤耐性菌感染症対策ネットワーク会議の活用手法を検討する。 				
その他					